
中外雑記

臨黄

被災者のナマの声伝える

●**妙心寺派** 十七日に神戸市兵庫区の真光寺で全日仏青など超宗派による震災一周忌慰霊法要が営まれた。当日は南禅寺派の矢坂誠徳瑞竜寺住職が受け入れ側の神戸青年仏教徒会準備実行委員会委員長を務めるなど、宗門僧侶が裏方でも奔走していたが、その中に宮下玄覚地蔵院住職の姿もあった。“仮設住宅に花いっぱい運動”で東奔西走する毎日で、この日も「法要が終わったら夕方六時から奈良で震災被災者支援の“ありがとうコンサート”だよ」と▽同住職が中心となって発行の準備を進めてきた『街がかわった心がかわった－阪神大震災二二〇人の証言』はこの一周忌までに間に合って完成。前夜に無事到着し、慰霊法要参加者に記念品として配られた。B六判五二八ページのなかに盛られた二百二十人の被災体験の重みは圧倒的。宮下住職を手伝って編集作業を担当した武地秀実さんも真光寺に来ていて、「最初は多少文章を手直ししようとしたのですが、ナマの声を伝えるため原文をそのまま活かすことにしました」と語っていた

▽この慰霊法要はNGO RACKや兵庫教区も共催団体に入っており、河野太通祥福僧堂師家は雲水ら約三十人を率いて行脚に参加。本山からは宮田正勝花園会本部長、源碓嶺花園会館部長や職員も法要に荷担した。また同教区の川本昭道宗議会議員らの姿もみられた

浄土

震災犠牲者の追悼法要を

●**西山浄土宗** 全国青年僧の会とボランティアの会は、兵庫県南部地震から一周忌を迎えたことから、嘉禄の法難法然上人追慕行脚の実施される二十四日午後一時から総本山光明寺で震災犠牲者の追悼法要を厳修する。引き続き、震災後、神戸でボランティア活動が続けてきた森本佳代子さんの記念講演を聞く。また、総本山光明寺では正当の十七日、晨朝法要で震災犠牲者の一周忌法要を厳修した。